

平成26年度「全国学力・学習状況調査」における
萩ヶ丘 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成26年4月22日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語・算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できているようになっていくことが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

萩ヶ丘 小学校「平成26年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B、算数A・B)結果

・本校の結果

国語A	全国平均正答率を下回っている。
国語B	全国平均正答率を下回っている。
算数A	全国平均正答率を下回っている。
算数B	全国平均正答率を下回っている。

(資料) 本市・全国の結果【平均正答率】

		国語A	国語B	算数A	算数B
平成24年度	本市	79.4	52.2	70.4	56.1
	全国	81.6	55.6	73.3	58.9
平成25年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4
平成26年度	本市	69.1	52.6	76.2	55.4
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、昨年度より上昇していた。 ・書くことは基礎ができていた。 ・長文を読む力を問う問題に課題があり、読むことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・文の意味のつながりを捉え、適切なものを選択する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・故事成語の使い方として適切なものを選択する問題については、正答率が低かった。 ・物語の登場人物の相互関係を捉える問題の正答率が低かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、言語知識理解は基礎ができていた。 ・話す・聞く能力に関する問題に課題がある。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・詩の表現の特徴として適切なものを選択する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・立場を明確にして、質問や意見を述べる問題の正答率が低かった。 ・分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらに関係付けながらまとめて書く問題の正答率が低かった。

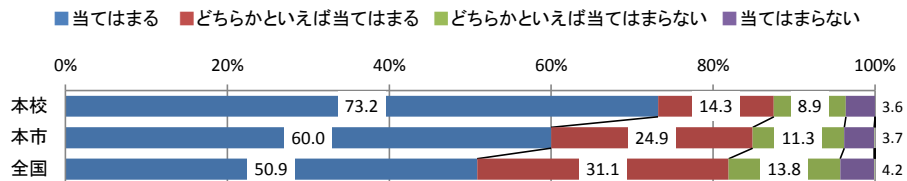
算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全国平均正答率をわずかに下回っていたものの、昨年度より上昇していた。 ・数量や図形についての技能については、基礎・基本の定着が図られた。 ・数量や図形についての知識・理解が未定着である。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのある加法の計算や、被乗数に空位のある整数の乗法の計算をする問題は、正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・単位量当たりの大きさを求める問題や、作図に用いられている図形の約束や性質を考えて解く問題の正答率が低かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的には全国平均正答率を下回っていたが、昨年度より上昇していた。 ・数量や図形についての知識・理解が未定着である。
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された場面から計算の結果の見通しをもち、筆算をする問題は、正答率が高い。
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> ・示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述する問題の正答率が低かった。

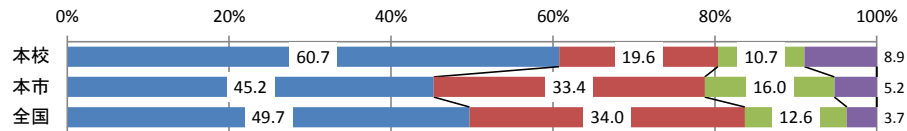
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

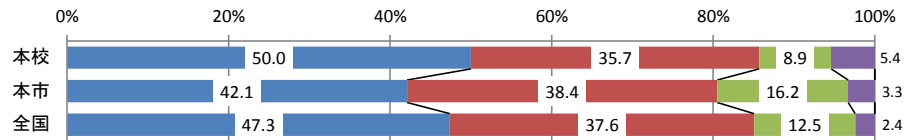
44
授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う



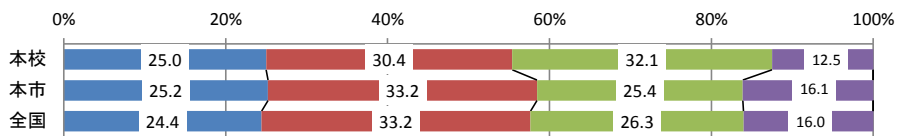
42
授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていると思いますか



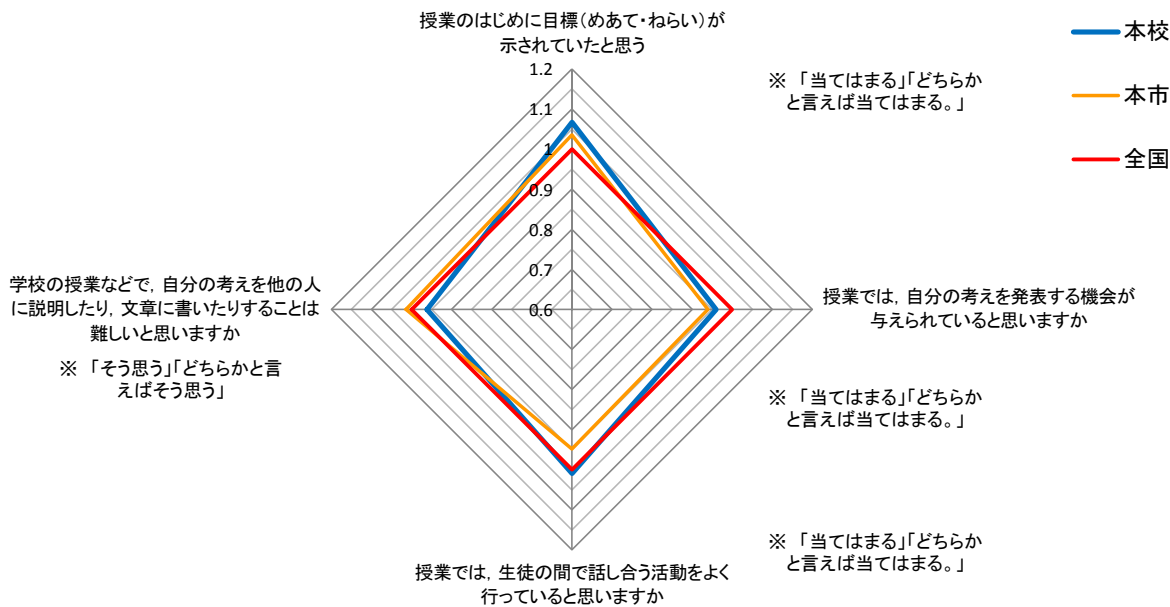
43
授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



47
学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

・授業のはじめに目標(めあて・ねらい)が示されていたと思うと答えている児童は、全国と比較しても上回っている。

・発表する機会が与えられていると答えている児童は、本校で経年比較すると増えているが、全国と比較すると下回っている。今後は発表する機会をさらに増やす授業を行っていく。

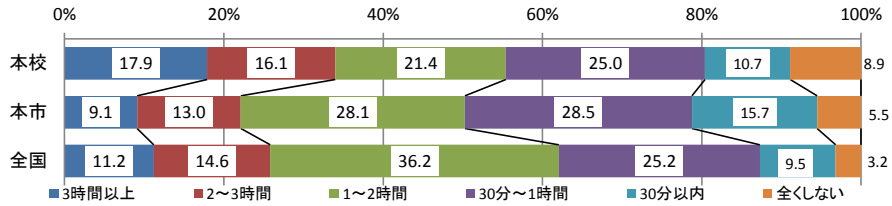
・話し合い活動は全国平均を上回ってきており、全校で話し合いに取り組んでいる成果が出てきている。

・文章に書くことに抵抗感を持っている児童は、本校で経年比較すると減っており、全国と比較しても下回っている。書くことに関しては、自分の考えを書いて整理してから説明させたり、授業の終わりに振り返りを書く活動を位置付けたりした成果が出てきている。

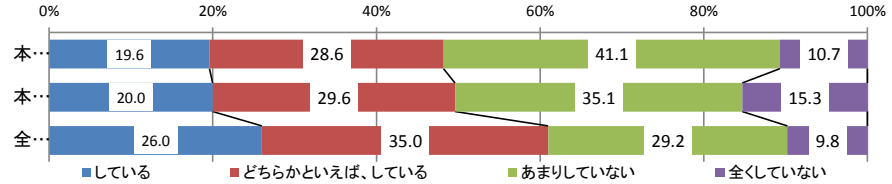
2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

① 家庭学習習慣に関する調査結果

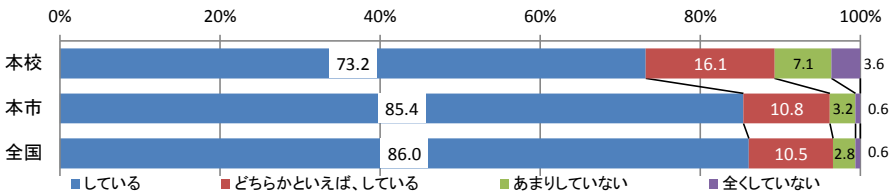
14
学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾や家庭教師含む)



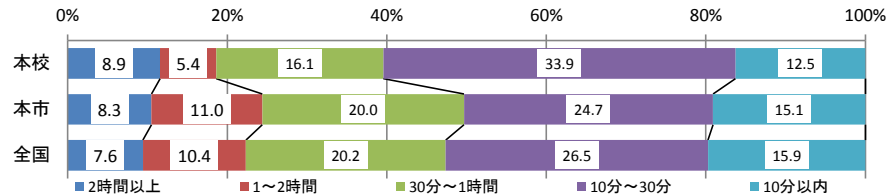
21
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



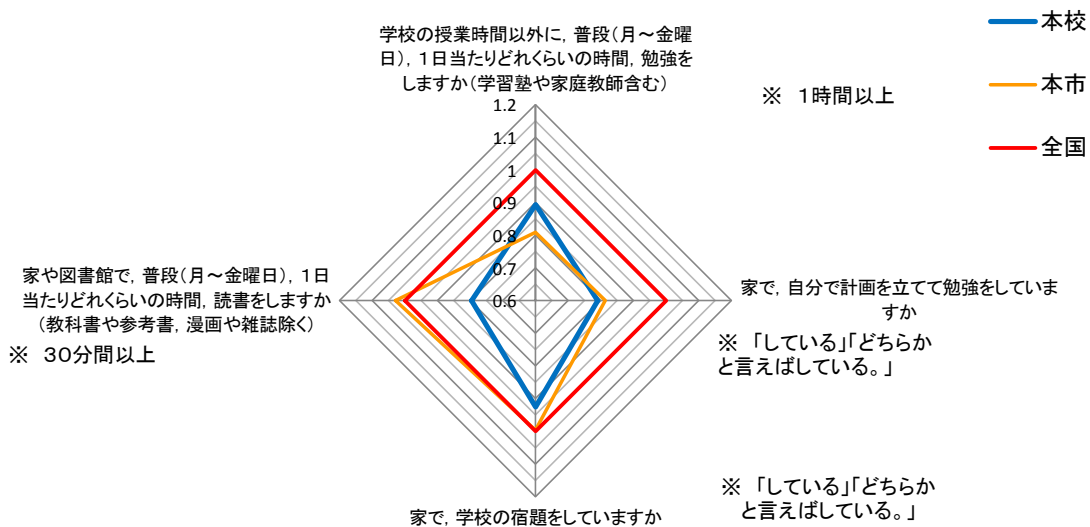
22
家で、学校の宿題をしていますか



17
家や図書館で、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

・1時間以上家庭学習をしている児童の割合は、本校で経年比較すると増えているが、全国と比較すると下回っている。家庭学習の絶対量が少ない。家庭学習の時間のめやすを示したり、家庭学習の具体的な取り組み方を指導する必要がある

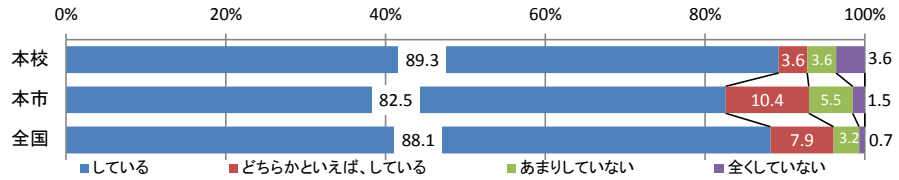
・「宿題を必ずする」と答える児童が73.2%であり、改めて学校からの課題の大切さと提出することの大切さを教える必要がある。

・自分で計画して勉強している児童の割合は全国より10%以上低い。自分で考え自主的に学習するような宿題の出し方の工夫が必要である。

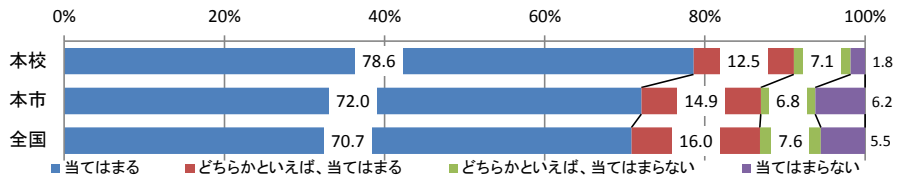
・家で1時間以上読書している児童の割合は全国より10ポイント近く低いが、2時間以上という児童は全国より高い。読書好きな子どもは多いので、家庭で読書に取り組むようになる手立てを考える必要がある。

④ 生活習慣等に関する調査結果

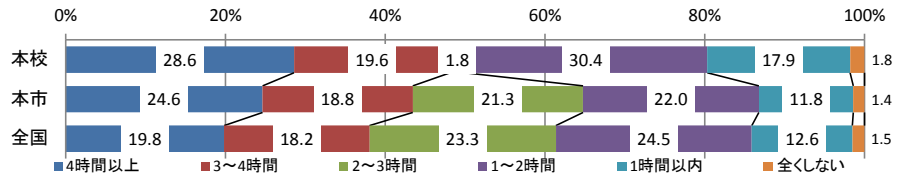
1
朝食を毎日食べていますか



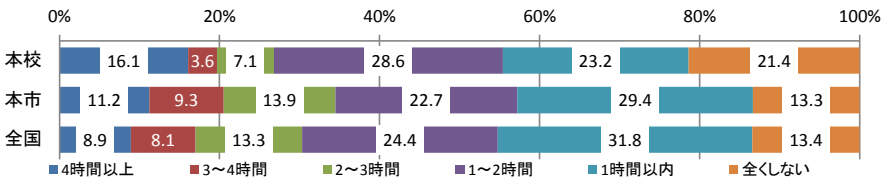
10
将来の夢や目標を持っていますか



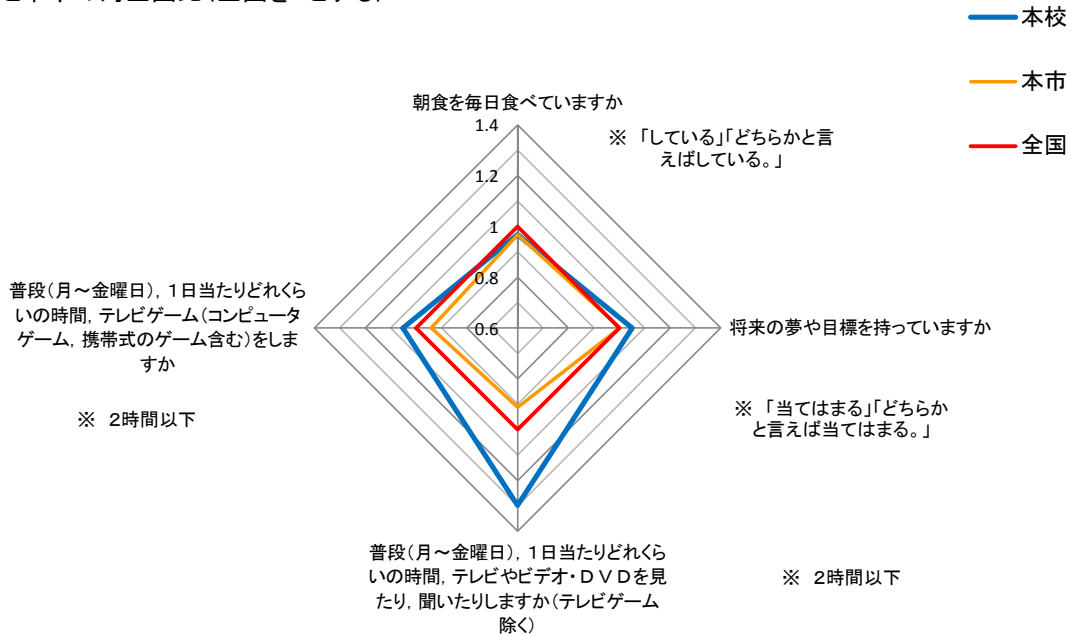
11
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか(テレビゲーム除く)



12
普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム含む)をしますか



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

・朝食を毎日食べている児童は、全国と比較するとやや上回っている。各家庭が、「早寝・早起き・朝ごはん」を目指して取り組んでいることが分かる。

・テレビ等の接触時間が3～4時間・4時間以上という長時間の子どもたちの割合が全国では38%であるのに対し、本校は48.2%と、約半数の子どもたちである。このメディア接触の時間を減らし家庭学習や家読に当てる必要がある。

・ゲーム等の時間は、2時間以上の児童の割合は減少していたが、4時間以上の児童の割合が増加した。それは全国の2倍近くになる。テレビと合わせメディア接触の時間を減らすことが家庭での生活習慣での最大の課題である。

・将来の夢や希望をもっている児童は全国と比較すると上回っている。計画的なキャリア教育・大人のモデルを招いての体験活動等の成果が伺える。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 学力向上のための特設時間の実施
 - ・特設時間の取組内容計画表作成(月:漢字タイム 火:国語タイム 水:10分間読書 木:算数タイム 金:算数タイム)
 - ・「朝の活動」の時間(1時間目の10分間)で全校一斉に実施(全校放送で、一斉に学習を始める。)
 - ・国語・算数の過去問題、アシストシート、単元別プリント等を入れておく引き出しを職員室前に設置
 - ・小中連携サポーターの効果的な活用。(活動補助、プリント整備等)
- ◎ 過去問題、アシストシート、活用力を高めるワークの活用
 - ・単元末に過去問題や活用ワークの問題を位置付け「力だめし」をする。
 - ・アシストシートを宿題とし、朝自習で答え合わせ、解説、やり直しを行う。
 - ・アシストシートと過去問を冊子にして、冬休み・春休みの「宿題帳」とする。
- ◎ 「書く」ことを習慣化する
 - ・学習のめあて、まとめをすばやく書けるようにする。
 - ・自分の思いや考えを書く活動を取り入れた学習展開を図る。
 - ・単元の最後、学習の振り返りを書くようにする。
- ◎ ドリル学習の時間確保
 - ・算数の時間の最後5分は、ドリルタイムとして、基礎の定着を図る。
- ◎ 全員100点プロジェクトの実施
- 補充学習の実施
 - ・給食準備中に、計算の練習を行う。
- ◎ 読書の習慣化を図る
 - ・図書室等の本を運搬可能なケースに入れ、教室内に置く。
 - ・読書カードに記録し、ファイルに綴じる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

※ 「◎」は現在取り組んでいること 「○」は今後取り組むこと 「・」は事例

- ◎ 発達段階に応じた、本校の生活習慣や学習習慣に関するスタンダードを全職員で共通理解のもと作成する。
- ◎ 通信やホームページを通して、保護者や地域に本校の生活習慣や学習習慣を啓発する。
- ◎ 本校の生活習慣や学習習慣を教室や廊下に掲示し、一人一人の児童の意識を高める。
- ◎ 全職員で以下の内容について重点的に取り組む。
 - ・チャイムを守る。 ・足をそろえておじぎをしてあいさつする。 ・丁寧な言葉遣いをする。 ・よい姿勢で学習する。 ・表現スキルを高める。 ・時間を守って掃除をする。
- ◎ 宿題のスタンダード化
 - ・自主学習ノートの活用
 - ・家庭学習時間の設定
 - ・「家庭学習の約束」の作成・実施
 - ・「家庭学習チャレンジハンドブック」の活用